

大倉喜八郎が遺したもの

蔵春閣、来春公開へ

天性の商才と努力で大倉財閥を築き上げ、近代日本の発展に大きく貢献した、新発田市出身の大倉喜八郎。彼が賓客をもてなすために、東京・向島に建設した「蔵春閣」は、新発田市駅前の東公園に移築され、来年には一般公開を迎えます。世界を見据えた熱い魂に想いを馳せ、その生涯と功績を辿ってみましょう。



新発田が生んだ実業家 大倉喜八郎

1837—1928

十八歳で江戸へ

大 倉喜八郎は、1837（天保8）年9月24日、新発田町（現新発田市）の下町に父・千之助、母・千勢子の三男・鶴吉として生まれた。23歳の時、尊敬していた祖父の通称・喜八郎に改名している。

大倉家はもともと農業を営んでいたが、祖父の代からは質屋を家業とし、名字帯刀を許されるほどの身分であったとされる。喜八郎は家業を手伝う傍ら、8歳で四書五経を学び、12歳の時から丹羽伯弘の私塾「積善堂」で漢籍・習字などを学んだ。この時に陽明学の「知行合一」という行動主義的な規範の影響を受けたといわれる。

1854（安政元）年、18歳で江戸に上ると、塩物商いの手伝いを経て、中川鯉節店に丁稚奉公に入り、そこで貯めた100両を元手に「乾物店大倉屋」を開業した。

その後、横浜で黒船を見て「戦争が起きる」と直感し、乾物店を廃業して小泉屋鉄砲店に見習いに入り、翌1867（慶応3）年には「鉄砲店大倉屋」を開業。戊辰戦争が始まると、鉄砲店は官軍御用達となり、明治に入ると、新政府軍の兵器・糧食の調達をすべて任されるまでになった。

世界を見据えたグローバル企業

徳 川幕府が倒れ、新政府が設立されると、喜八郎は「これからの日本はすぐれた外国の技術を取り入れ、欧米と貿易をして国を富ませなければならぬ」と考え、欧米の商業を学ぶために海外視察に出かける。喜八郎は、自費で欧米に視察に行った最初の日本人となった。帰国後の1873（明治6）年、喜八郎は銀座に株式会社大倉組商會を設立し、ヨーロッパをはじめ世界各国との直貿易に進出。本格的な実業家としての道を歩み始める。

1878（明治11）年には渋沢栄一らとともに東京商法會議所（現東京商工會議所）を設立。実業界のトップとして大きな力を持つようになり、その後も鹿鳴館、東京電燈、帝国ホテルなど数多くの企業の設立に参画した。

1880（明治13）年、向島別邸が竣工。1912（大正元）年、その敷地内に賓客の接待のための別邸「蔵春閣」を構えた。世界を見据えた喜八郎は、国内のみならず、大倉組商會を設立した翌年にはロンドンに大倉組商會倫敦支店を開設。その後、上海、ニューヨーク、台北、メルボルン、シドニーなど世界各地に支店や出張所を設けて海外展開を図った。グローバル企業の先駆けといえる。



大倉喜八郎が遺したもの

蔵春閣
1912（明治45）年、東京・向島（現在の東京都墨田区）の隅田川沿いに迎賓館として建設された別邸の一部。後に千葉県船橋市に移設されたが解体され、新発田市へ移築。現在内装工事中。公開が待たれる。



双子の石碑
1916年、喜八郎80歳の時、自身の商売の礎となった祖父・定七を称えるため、一つの石を二つに割って作られた双子の石碑。新発田市東公園と東京都港区「大倉集古館」敷地内の二箇所に置かれていたが、大倉集古館の改装工事を機に約100年の時を経て新発田市へ寄贈移設された。現在は新発田市東公園（左）と県立新発田病院（右）敷地内に立つ。



新発田市立歴史図書館 小展示
大倉喜八郎と蔵春閣

- 会期 / 8月13日(土)～12月18日(日)
- 休館日 / 毎週月曜(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)
- 開館時間 / 9:00～17:00
- 会場 / 新発田市立歴史図書館 1階 展示室2 (新発田市中央町4-11-27)
- 入場料 / 無料
- 展示品 / 大倉製糸工場に関する写真パネル、蔵春閣で使用されていた調度品など
- 問合せ / 新発田市立歴史図書館 TEL.0254-24-2100

展示を企画した新発田市立歴史図書館の鶴巻康志さん。「偉大な実業家として知られる喜八郎さんだが、粹で洒落な一面も。新発田人として熱い想いを持った喜八郎さんをもっと身近に感じ、来年の蔵春閣公開を楽しみにしてほしいですね」



パネルに仕立てた喜八郎さんと並んで自撮りができるコーナーもあります!

新発田市立歴史図書館で

「大倉喜八郎と蔵春閣」展を開催中!

来年公開予定の蔵春閣で使われていた調度品のほか、大倉製糸工場に関する写真パネルなどを展示した「大倉喜八郎と蔵春閣」の小展示が新発田市立歴史図書館で開催中。実際に使われていた天井板などを間近で見られるほか、大鏡の前で大倉喜八郎のパネルと並んで自撮りができるコーナーも。

東 京新潟県人会の初代会長を務めるなど故郷への想いは深かった喜八郎であったが、新発田へ帰郷したのは、1901(明治34)年の時が初めてであった。喜八郎、65歳、故郷を離れてからおよそ50年ぶりの帰郷だった。このとき、喜八郎は現在の五十公野公園で園遊会を催して郷里の人々をもてなし、諏訪神社周辺を公園として整備した。これが現在の東公園である。

ほかにも水道設備や羽越鉄道開通にも協力するなど、新発田のために尽力した。

2度目の帰郷は、1916(大正5)年、喜八郎が80歳のとき、自身の銅像の除幕式に参列ためだった。このとき、生まれ故郷である新発田の地に工場の煙突が見られず、産業がないことに気づいてがっかりした喜八郎は、2年後の1919(大正8)年、大倉製糸新発田工場を設立。そのとき一首の歌を残している。生まれ故郷新発田への期待と熱い想いが伝わってくるようだ。

たましいを 入れてつとめよ
銅像の 魂はこの 新発田工場



- 1) 御法川式操糸機 国内で開発された新しい操糸機を新発田工場に導入
 - 2) 工場の玄関前にて観櫻会の仮装 観櫻会には、轎や山車も加わり駅前の工場を出発する
 - 3) 伝習制度による育成 毎年就労予定者を集め、技能を学ぶ
- 写真は全て1925(大正14)年撮影(新発田市立歴史図書館所蔵)



大倉喜八郎 生誕之地

生誕之地 1837(天保8)年9月24日、旧新発田町の下町で生まれた喜八郎。生誕の地である現在の大手町「下町わ組会館」前には、「大倉喜八郎生誕之地」と彫られた碑が建てられている。



「大倉喜八郎と蔵春閣」開催中 市立歴史図書館

大倉製紙工場 跡地 大倉喜八郎 石碑

東公園 蔵春閣 (工事中)

「大倉喜八郎と同時代を生きた偉人たち」開催中 イクネスしばた 2階展示室

イクネス新発田でも関連イベント開催中!

企画展示 大倉喜八郎と同時代を生きた偉人たち

- 会期 / 8月13日(土)～10月10日(月・祝)
- 休館日 / 毎週木曜
- 開館時間 / 9:00～20:00(月～水・金曜) 9:00～17:00(土・日曜、祝日)
- 会場 / イクネスしばた 2階展示室 (新発田市諏訪町1-2-12)
- 問合せ / 新発田市立中央図書館 TEL.0254-22-2418



蔵春閣 2023年4月一般公開 (予定)